

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力为上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中

報告日 令和4年9月9日

送信先: report@r-ict-advisor.jp

派遣決定番号

報告回数

3日目

## 令和4年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	佐世保市	代表者名	朝長 則男
担当者部署	観光商工部	連絡先電話番号	0956-37-6112
担当者役職	係長	担当者氏名	鳥本
住所	857-8585 長崎県佐世保市八幡町1-10		

#### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	森戸 裕一
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	内部支援者を対象に助言をしていただいた。また、この取組みの核となる「佐世保市産業支援センター」が今年度実施している「リブランディング事業」の進捗状況と今後の在り方についても、講師の意見や参加者からの意見を確認する機会となった。
アドバイザーへの要望事項	今後もアドバイス頂きたい。

### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和4年9月2日	講演(実地)	有	令和4年8月9日	193
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和4年9月6日	支援・助言（オンライン）	14時00分	16時30分	
				活動時間（分）	150
3-2. 派遣場所	会場名	佐世保市産業支援センター（オンライン）	最寄駅	佐世保駅	
	所在地	長崎県佐世保市松浦町5-1（オンライン）	最寄駅からの交通手段	バス・タクシー	

### 4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

[https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past\\_year\\_all\\_houkoku/](https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/)

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	職員、金融機関、一般	19人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	支援機関や連携機関として、「IT化」や「DX」への支援を行っているものの、何のためにやるのが目標が共通でない。例えば、成功している都市や先行事例について情報共有したり、支援方法について考えるコミュニティやプラットフォームが無い。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	支援機関や連携機関が「地域全体のDX」の取組みを共通の目標であることを確認し、同じ方向を向いて、地方でやるべきことを意見し合いながらコミュニティづくりを行う体制を構築すること。その軸となるのが、今年度リブランディング事業に取り組んでいる「佐世保市産業支援センター」で、この軸を中心としたプラットフォームを構築する。	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	オンラインによるワークショップとなったことから、参加者それぞれの立場で「地域全体のDX」に関する考えを共有した。そして、本市においてはコミュニティが小規模であることを再認識しつつ、なぜコミュニティが形成しにくい環境なのかを議論しながら、地域広報DXのプラットフォームが必	

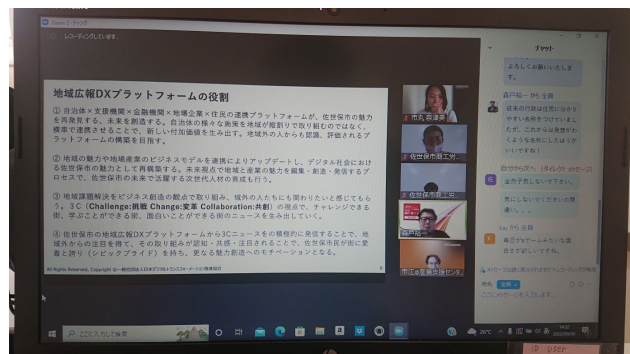
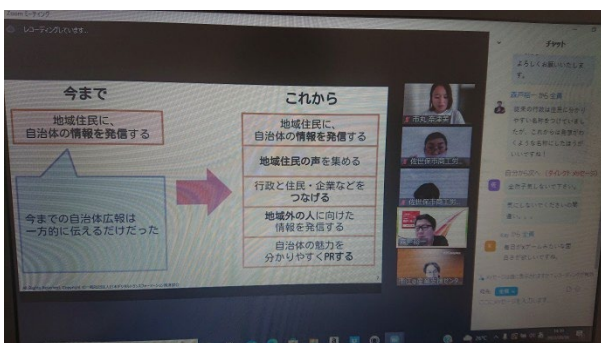
	要であるという見解を導き出した。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	国が掲げる「デジタル田園都市構想」への理解と、地方が取組むべき課題を参加者で認識した。佐世保市産業支援センターが今年度取り組んでいる内容について進捗報告を行いつつ、地域の情報発信源として認知度を高めると共に、市内中小企業についても広報の重要性を認識してもらうことが必要であることから、今回の参加者同士で周知する。プラットフォームを構築することで取組みや情報に対して担保が生じて、プラス効果になる。関係者をもっと巻き込み事が必要である。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	無し	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 広報DXプラットフォームの役割や活動方針まで講師に示していただいたが、やはりリアル開催して先ず参加者のコミュニティを形成したい。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿	「地域全体のDX」という大前提は変えず、それぞれの取組みをそれぞれの立場で情報発信し、分かり易く伝える「広報DX」への理解を深める。	

未記入のセルが有ります。以下の項目に水色と黄色のセルが残っていないかご確認下さい。  
 なお、その他を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

1-1.

## 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



### 地域広報DXプラットフォームの活動方針

- ① 未来創造に向けてチャレンジする  
 本格的なデジタル時代を迎え、ビジネス環境や個人の価値観は多様化して、これまでの常識が通じない社会になって

います。シティプロモーションも従来の手法や考え方ではなく、デジタルツールを使いこなしながら、魅力的なコンテンツを創造する必要が出てきた。地域広報DXプラットフォームでは、未来に向けて新しいことにチャレンジする人を応援し、異業種や地域をつなげるネットワーク構築を目指していきます。未来に挑戦する人材が集まり、未来を創造する人を育て、未来を形成するために連携を図るプラットフォームを目指します。

**② 未来で必要となるスキルを学ぶことができる**

子供たちは、GIGAスクール構想でデジタル機器を用いてSTEAM教育を受けています。未来を創造し、地域を支える次世代人材が活躍できる街づくりの基盤を構築するために、親世代の学び直し（リカレント・リスキリング）の取り組み支援も重要になっています。本プラットフォームに参加し、未来に向けた地域課題解決のプロジェクトに参加することで、大きな学びや刺激を受けることができます。学校で学ぶこと、地域で学ぶこと、学んだことを実践することで地域全体がインクルーシブスクエアとして発展していきます。

**③ 地域課題解決を楽しみ、注目されるニュースを生み出す**

これまでの地域課題解決の取り組みは、行政の縦割構造のために非常に非効率な形になっていたこと、施策間連携が難しい状況になっていました。しかし、自治体の組織を横断的に連携するのは現実的ではないことから、地域プラットフォームが地域課題解決をビジネスで解決するという視点で官民連携、異業種連携、地域間連携などの取り組みを推進し、これらをの取り組みをわかりやすく編集し、魅力的に見せ、発信することで、多くの人々に共感してもらえるニュースをつくるという視点で情報編集・加工・発信をおこなっていきます。